

平成30年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	川村 保

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	中国語・韓国語の履修者が、語学の授業としては適正な人数を超えている。 履修者が多いクラスで、シラバス通りに授業を進められないこともあった。
	理由	・時間割の編成が学生にとって履修しやすい時間帯に位置していた。 ・語学に関心のある学生が予想以上に多かった。
②	課題	【継続】 事前・事後の学習が不十分である。
	理由	・前回の授業評価と比べると、事前学習と事後学習についていくつかの科目では改善の兆しが見えてきたように感じられるが、依然として十分とは言えない状況である。
③	課題	【継続】 学習環境が十分に整備されていない。
	理由	・老朽化した設備・備品があり、授業の実施に支障が生じている。 ・アクティブラーニングに適した構造の教室が少ない。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の中国語と韓国語については、2クラス体制で実施し、1クラス当たりの履修者数を減らすことを検討している。 ・時間割の編成は年度によって変わらざるをえないので、履修しやすい時間にある科目だからという理由で履修する学生がどのように履修する科目を選ぶかについては不確実性が残るが、いずれにしても2クラス体制にすることで課題は改善されるものと考えている。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間でのノウハウの共有等については、引き続き取り組んでいく。 ・課題を課すことによって事前学習・事後学習が促されているようであるので、そのような手がかりもFDなどの場を使って教員間で共有していく。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館のメンテナンスや各教室のホワイトボードの更新等については、引き続き基盤教育群としても事務局への働きかけを行う。 ・クラスの大きさやそれに応じた教室の割り振りについては、時間割編成の中で可能な限り調整を行う。 ・アクティブラーニングに適した教室を増やすことは現実的には難しいので、これも時間割編成の中で可能な限り対応する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・高校時代や大学入学後の学習の違いにより基礎知識が不十分な学生が混在している状況に対して、簡単な例題を与えてグループ学習を促したり、レジュメを工夫したりするなどして対応している。
- ・レジュメの一部を穴埋め形式にして、授業への集中を促している。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・教員会議などで、教育改善について話題として取り上げ、これらの事例についての情報共有を図る。
- ・その他にも、関連の科目の担当教員のミーティングやFDなどの場を通じて、教育方法改善についての情報共有を図る。

平成30年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	原 玲子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	理解が難しい専門科目等は、事前・事後学習の方法や授業中に集中する方法が工夫されている。しかし、学生からは「課題が多すぎる」「作業になってしまっている」レポート課題により事前学習していても、それを事前学習とは理解していない等のレスポンスがあり、事前学習、事後学習のさらなる工夫をしながら、学生に意識付けする必要がある
	理由	授業内容を理解し、知識を習得していく過程で、学生が自ら、事前・事後学修は必要と認識することが重要である
②	課題	評価方法として、ルーブリックについて、今年度学群FD(8月)で検討した。前期の科目の反映はこれからと思われるが、引き続き検討が必要である。
	理由	事前学修～授業～事後学修～試験等の一連の流れの中で、評価方法を示すことは、学生が授業内容の理解を深める上でも、教授する教員にとっても共通理解するために重要である。
③	課題	PC必携化を踏まえて、電子教科書を使用した科目に対し、学生から「毎回PCを開けるのが面倒」「講義の受けにくさ」が挙げられていた。PCを活用できる学生を育成したいが、習慣になっていないこともあり、強化が必要である。
	理由	看護は、急激に、ICTが進んでおり、PCの必携を機会に、ICT教育を充実させる必要がある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前・事後学修については、引き続きの課題である。今期は「講義最初の到達目標提示」「小テスト」「レポート」「課題の提示」等の工夫がされていた。各科目において、事前・事後学修をどのように行っているのか、その方法をどのように評価しているのか等の情報を共有し、FD等を通して、効果的な方策を検討する。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護学群の将来構想として、地域包括ケアを推進できるナースの育成をめざしている。PC必携を契機に、道具および学生の能力を引き出すようなカリキュラムについて検討する。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ コモンズ等の整備に伴い、講義室の視聴覚の工事も行われ、これまでの「スクリーンに見にくさ」等が、解消されると期待したが、ホワイトボードに映る映像は、鮮明さが低下し、画面に切れ目が入り、逆に「見難い」状況が発生している。授業進行において重要なことなので、ハードの側面について検討をいただきたい。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・ 授業のはじめに、「小テスト」を行い、そのことが、事後学修の動機付けになり、事前学修にも反映されていた。
- ・ Moodle を利用して、講義資料を事前に配布し、演習課題は事後に提示している。
- ・ 学生には不満な側面もあったが、電子許可書を使用している授業の展開を行っておりPCの活用の促進になる

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・ 教員会議で紹介し、情報を共有する。
- ・ 看護学群のFD、将来構想検討チームの活動を通して、事前・事後学修時間の確保を促進する方法、ICTを強化したカリキュラム等について検討を進める。

平成30年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	風見 正三

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td>授業計画や事前・事後の学習方法の共有化を進める必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>各科目で事前・事後の学習方法の改善を進めているが、その成果の共有化が必要。</td> </tr> </table>	課 題	授業計画や事前・事後の学習方法の共有化を進める必要がある。	理 由	各科目で事前・事後の学習方法の改善を進めているが、その成果の共有化が必要。
課 題	授業計画や事前・事後の学習方法の共有化を進める必要がある。				
理 由	各科目で事前・事後の学習方法の改善を進めているが、その成果の共有化が必要。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td>科目の特性を踏まえた外部講師の戦略的な導入の評価を行う必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の導入シナリオが必要。</td> </tr> </table>	課 題	科目の特性を踏まえた外部講師の戦略的な導入の評価を行う必要がある。	理 由	授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の導入シナリオが必要。
課 題	科目の特性を踏まえた外部講師の戦略的な導入の評価を行う必要がある。				
理 由	授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の導入シナリオが必要。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td>実践的な知を習得するための効果的な学習支援システムの導入を検討する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>フィールドワークやMoodle等の効果的な学習支援・評価システムが必要。</td> </tr> </table>	課 題	実践的な知を習得するための効果的な学習支援システムの導入を検討する。	理 由	フィールドワークやMoodle等の効果的な学習支援・評価システムが必要。
課 題	実践的な知を習得するための効果的な学習支援システムの導入を検討する。				
理 由	フィールドワークやMoodle等の効果的な学習支援・評価システムが必要。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	学類会議において、講義の事前・事後の学習の実施状及び改善方法について議論を行い、教員連絡会議で情報共有を行っていく。				
②	学類会議にて、科目特性を理解しながら、学類ごとの外部講師の導入戦略について検討を行い、学類毎の特性を踏まえたガイドライン等の構築を進めていく。				
③	フィールドワーク手法やMoodle等の効果的な学習支援・評価システムを授業管理メソッドに活用できるよう、学群のチューデントサービスセンターWGが主体となり、教員連絡会議の場を活用しながら、教職員の情報共有を進めていく。				

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義の総合的な効果測定を意識した講義運営手法を整備していく。 ・事前・事後の学習効果を講義内で把握する手法を進めていく。 ・授業時間内で参加型・対話型の講義運営を進めていく。 	
2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・「実践」と「理論」の両立を促すための講義運営手法について、教員連絡会議にて情報共有を行うとともに、効果的な授業管理メソッドについて各学類の検討を進めていく。 ・外部講師やオムニバス形式の講義の運営について、学群や学類における情報交換を進め、学習達成度を向上させるための効果的な講義運営について検討を進めていく。 	

平成30年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川 正純

1-1(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：授業評価の回答率が50～70%と前年よりは改善してきているものの、依然10%代と低い科目も見受けられる。継続的な改善が必要である。
	理由	最終回の講義時に10分程度時間を取って授業評価アンケートに回答するよう指導している（スマートフォンでの入力も可能なことも伝えている）が、操作が複雑でその場での実施に至っていない。
②	課題	継続：座学講義・実験実習において、課題レポート・予習・復習などの授業外学修時間が「1時間未満」や「全くなかった」の回答が前年同様依然多い。
	理由	自発的な授業外の学修が望ましいが、予習・復習が必要ないと考えている学生が多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。
③	課題	継続：授業評価アンケートでの授業の到達目標度合いで、科目によっては授業の理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考えられる。
	理由	②の予習・復習が行えていないことに加えて、基礎科目での学修が十分出来ておらず、それに繋がる応用科目の理解度がより低くなっていると考えられる。

1-2(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については、1月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図ると共に、本年度後期は授業時間内(14回目、15回目)に必ず10分程度時間を取り、回答手順の詳細な説明し、コンピュータラボではなく、講義室において各自のスマートフォンやパソコンで回答するよう学生に指導するとともに、確実に入力したのを確認するようお願いする。なお本課題は、新学習支援システムの導入・利用によってかなり改善が進むと考える。
②	本課題については、1月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨期に引き続き、グループワークやLTD(Learning Through Discussion)課題を事前に取り組ませること、さらに宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施をお願いすることで、授業外の学修の習慣付けを実現する。
③	本課題については、1月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD(Learning Through Discussion)、ピアサポートの実施・活用をお願いする。さらに、新学習支援システムの導入・利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修(簡単な演習)のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。

2-1(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

「図を用いて基本的な解析例を数多く紹介」、「重要な個所をはっきり伝えた」、「重要なポイントを頻回解説した」、「ケースメソッドの手法により、学生が主体的に考え、発表する、議論することに取り組んだ」、「受講ノートに学生が記載した質問等への回答、コメントを必ず実施した」、「一番理解が遅い人に合わせて講義を進め、全体の理解度を高めた」、「授業の終わりに学びの確認のための小テストを行い、重要ポイントの理解を深めると共に、理解していない点を次回の授業で解説・補足説明した」、「クリッカーを使用して生徒の意見を反映させる新しい手法を取り入れた」、「練習問題について、学生間でディスカッションしながら回答する時間を設けた」など

2-2(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

昨期に引き続き、双方向型授業、グループスタディ・ブレインストーミング・ディベートなどのアクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。